

## (1) プロローグ

東洋大学国際地域学部 教授 太田勝敏

おはようございます。私は今年の4月に東京大学から東洋大学に移りましたが、都市交通計画を専門としており、都市におけるいろいろな交通手段を全体的な都市計画や環境と調和させながら、どのように進めていけばいいのかについて研究しています。

カーシェアリングについて、私はかなり前からいろいろな場面を見させていただき、ご紹介などもしてきました。今日は、カーシェアリングの社会的意義という点で、なぜ私たちが交通計画の立場から注目しているのかということをお話いたします。

カーシェアリング、すなわち車の共同利用・共同使用ですが、私は、マイカーに代わる新しい持続可能な交通手段という位置づけで重視しています。いろんな立場でこれに関わりを持たれる方々がいらっしゃるかと思いますが、個人的な、使う側からのメリットと同時に、社会全体としてどういうメリットがあるのかという観点から考えた場合、少なくともマイカーに代わる新しい、利便性の高い公共的な交通手段に段々と近づいてきていると思っています。今日このあと内外の最近の展開が報告されます。また、会場にこれだけの方々がお集まりになったこと自体が示していますように、国内でいろいろな新しい試みが行われていますし、いろいろな期待もあります。このような機会を通して、次の発展につないで行かれたらと思っています。

私はエコモ財団の最初の研究の段階からわが国でのカーシェアリングに関する取り組みについて見てきており、その後も雑誌等書いたりしています。そのなかで、世界の動向を踏まえ、私どもで関心を持って見ている点について、私の方から気の付いた点を幾つかお話ししたいと思います。

今日はこのあとアメリカの一つの成功している事例が紹介され、また、日本の各地の経験が紹介されることになっています。このような組織的なカーシェアリングはヨーロッパで意識的に始まりました。他方、ごく自然に無意識で行われているものをインフォーマルなカーシェアリングといっていますが、個人、友達等でいっしょにやるのは昔からたくさんあったわけですね。それをコミュニティ・レベルで草の根的に組織化する、それが段々と企業とうまく連携してやっていく、あるいは公共交通組織と連携する、といった様々な展開が出てきています。

私は、パブリックカーというような、電気自動車や先進自動車を使ってハイテクな形で、どちらかという大企業なり自治体、政府が技術開発がらみで進めているカーシェアリングと、もう一つ、通常の車を組織的に使ってそれを社会全体でうまく使えないかという発想で出てきた、草の根型のコミュニティ・カーシェアリング、あるいは組織的カーシェアリングといっていますが、これら2種類があるだろうと考えていました。しかし、その後の展開をみてみますと、両者が非常に近づいてきているといえますか、ハイブリッドなり、バラエティが数多く出てきています。これは、それぞれの地域のニーズに応じた展開が行

われているためかと思います。

こういった試みは今日ご紹介される以外に、アメリカ各地はもちろんのこと、アジアでもいくつかあると聞いています。途上国でも新しい試みとして進んでいるということです。それから、カーシェアリングに関連したホームページも、地域的なものから世界全体のものまで、いろいろなところで立ち上がっていますから、見ていただければと思います。

最近の展開で私が特に興味を持っていますのは、イギリスのロンドンで今年の2月17日に始まったロードプライシングに関連したカーシェアリングの動きです。実は、そのときに合わせて、カーシェアリングのいろんな組織がロンドンで立ち上がっています。確か7つの区で始まりました。当初は、カーシェアリングの車は公共的な価値があるのだからタクシーと同じようにロードプライシングを免除して欲しいという議論がなされたと聞いています。結局、時期尚早ということで駄目になりましたが、環境自動車は個人所有であっても免除する措置がとられました。これは一つの例であります。

注意してもらいたいのは、イギリスでは最近、カーシェアリングというと相乗りという意味で使われているケースがあることです。イギリスではむしろ、コミュニティ・カーシェアリング、シティカークラブ、あるいはカークラブという呼び方でいろいろな組織ができています。

いずれにしても、車先進国、成熟した車社会のなかでも新しい共同所有・共同利用というものが広がっています。これは、渋滞緩和や、駐車スペースの節約と合わせながら、社会全体として一定のモビリティは確保しながら、車を個人にとっては安く、また、社会的にもより節約した形で使うということへの期待によるものだと思います。これまでの経験から、カーシェアリングに参加している方の行動を見ますと、従来に比べ、本当にそのとき車を借りて移動したほうがいいのかどうかを1回1回判断しながら選択しています。カーシェアリングの料金体系は、時間と距離で使用レベルに応じて支払うという形ですから、マイカーや、1日単位のレンタカーとは全く違った行動様式をとることになるわけです。私は、カーシェアリングによる行動様式のこうした変化が持続可能性につながるものと、大いに期待しています。

私も今日は最新の動向を勉強させていただきたいということで参加いたしておりますので、よろしく願いいたします。